

# 舟山

発行者  
幸田町立南部中学校  
池田 和博  
第111号

一学期も残り一か月を切りました。

部活動では、運動部の夏季大会も近づき、生徒たちは、練習に真剣に取り組んでいます。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、大会が実施されませんでした。そのため、今年の大会にかける生徒たちの思いは、例年以上のようです。地域の皆様、ぜひ応援をお願いします。

学校での活動は、教科の学習や部活動だけではありません。情報モラル教室やAED講習会などの研修も行いました。情報モラル教室では、情報端末機器やSNSを利用する上での危険性や気をつけることなどを教えていただきました。情報化社会は、これから、今以上に進んでいきます。生徒たちにとって、情報モラルを身につけることは、とても重要なことです。今後も、いろいろな場で指導していきたいと考えています。ご家庭でも、お子さんがSNSを利用するときのルールなどについて、話題にしてみてください。

## 便利な世の中での危険

三年 磯部 環希

六月七日に情報モラル講習会がありました。スマホの利用の仕方について、話をさせていただきました。T i k T o kとか、自分をインターネットに発信してしまうと、それは一生残り、個人情報特定される可能性があるとかわかりました。画像の背景や風景、着ている服装などから、どこにその人がいるか位置がわかってしまうし、通学している中学校とかもわかってしまうことを教えていただきました。私は個人情報を出すのは嫌なので、T i k T o kはしていません。



## ネットの危険性

一年 小田 菜摘

今回の情報モラル教室で、改めてネットの危険性を感じました。初めに、何気ない日常の動画から学校や住所などの個人情報が特定されるという話がありました。ネットにアップされている中学生の動画を講師の方が解説しながら私たちの目の前で特定していて、正直驚きました。自分では大丈夫だろうと軽く思っていたけど、特定しようと思っている人には本当に簡単に特定されてしまうことを知りました。とても恐ろしいし、むやみにSNSにアップすることはやめた方がいいなと改めて感じました。SNSのやりとりの中で、被害にあっている中学生も多いと学び、危険感が高まりました。もう一度、今の使い方を見直したいなと思います。



## インターネットの危険性

一年 中根 美桜

私は情報モラル教室で、普段何気なく使っているスマホやインターネットが、人にまちがった情報を与えてしまったり、SNSで住所や名前、学校名までわかったりすることを知りました。他にも話を聞いて、スマホでラインをする時には、相手に不正確な情報を伝えたり、傷つけたりしないために、送る前に読み直して考えて送りたいと思いました。またSNSでは、見ず知らずの人と繋がることで危険な目に合わないために、安易な気持ちで使用しないようにしたいと思います。

スマホは便利だけど、上手く使いこなさないと怖いものだというのを頭に入れて使用していきたいです。



人を助けるために

一年 天野 修希

授業前は、AEDの使い方を学ぶのだと思っていました。でも、講習会の中で、応急手当のことについても習いました。胸骨圧迫やAEDを使って人を助けるという動作に注目しがちですが、周囲の安全を確認したり、周りの人を呼んで助けを集めたりしないと人命救助はできないのだなと思いました。また、周りをお願いするときに、誰かわかるように示すことが大切なのだわかりました。

今日は、人形を使って胸骨圧迫をしましたが、実際の場面では、本物の人にやらないでなりません。目の前で人が倒れているということは、めったにないと思います。いざというときに、自分から人を助けられる人になりたいです。



地域のために「中学生が」

二年 石橋 陽和

毎朝の通学時に地域の方がかけてくださる「いつてらっしゃい。」や「おはよう。」という言葉からは一日の始まりを実感し、防犯パトロールでの「おかけが見守ってください」という気持ちになります。地域の方が私たちを見守ってくださいのおかげで、安全に登下校ができます。私たちも朝から元気に挨拶し、交通マナーをしっかり守っていきたいです。中学生ができる方法で、地域を明るくしたり、地域を守ったりしていきたいです。

守られるだけでなく、中学生だからこそできる方法で、地域の方との交流を深め、良い関係を築いていきたいです。



一人一人が主役

三年 山口 詩乃

私たちのチームの目標は、「全ての人に元気を与えるチーム」です。私たちの良さである元気で大きな声で、観ている人を元気にさせたいという思いで毎日練習しています。練習では、一人一人がよさを生かして活躍できるように、互いに指摘したり、本音で言い合ったりしてきました。なかなかチームがまとまらず、思うようにできなかったときがありました。でも今では、チームみんなの力で勝つために一人一人が必死でプレーしており、一体感があります。

夏の大会では、今まで積み上げてきたものを全て発揮し、一人一人が主役となり全員で大会を勝ち抜きます。そして、たくさんさんの試合をし、全ての人に元気を与えるプレーをしてきます。



今までの感謝を

三年 桐戸あずみ

私は夏の大会で、今までのすべての感動を伝えられるような戦いにしたいです。私が剣道に触れることができたのも、ここまで頑張ってくれたのも、周りで支えてきてくださった方々のおかげです。その中で、いちばん私の支えたったのはチームの仲間でした。憧れるような、チームをまとめられるような先輩が私はできません。だから最後までいはいはなれなかつた姿になつて、仲間に感謝の一本を届けたんです。勝つても負けても、私はみんなと剣道ができて幸せだったと伝えたいのです。大切な仲間のために戦い抜いてきます。

